

2月5日（水）

◆県との懇談会

今回の研修のとして県との懇談会を実施。「海外から見た福島、実際に見た福島」と「帰国後における研修の活用」の2つの議題について懇談を行った。



国際課長挨拶



懇談の様子

（主な発言内容）

① 今井 マリナ 由美（ブラジル福島県人会）

- ・来日前にブラジルで福島の水や魚は食べられないと話していたが、そのようなことはありませんでした。
- ・びっくりしたのは、相馬の町や店がきれいにそろっていたところ。でも、みなさんの心は壊れているのかもと思いました。

② 遠藤 リリアン 真由美（ブラジル福島県人会）

- ・ブラジルから震災を見てとても心配していましたが、ニュースで瓦礫の片付けも進んでいるのを見てブラジル人達は安心しています。
- ・日本では皆協力してやるので、すぐに立ち直ることができるのだと思いました。
- ・実際に自分の目で見て、日本はすごいなと思いました。

③ 宮島 ナタリア カオリ（ブラジル福島県人会）

- ・来日する前の福島のイメージは、テレビで見た、家族がバラバラになってしまった人がたくさんいるような福島でした。
- ・福島に行くこと決まったとき、友人からも「大丈夫？」と心配されました。
- ・でも、実際に福島に来てみたら、テレビで見たこととは正反対でした。厳しい現実を前に、元気に戦って元の福島を取り戻そうとする熱い気持ちを感じました。



今井さん



遠藤さん



宮島さん

④ 今村 アンドレ コージ（ブラジル福島県人会）

- ・私はブラジルにいる時、津波や放射線の栄養を受けた場所がどのように復興しているか想像もつきませんでした。
- ・今回の訪問で、行政機関がどのような努力をしているのか分かってよかったです。
- ・私たちの世代にも、これらの情報を共有していきたいと思います。

⑤ 須藤 ルーカス 賢二（北伯福島県人会）

- ・福島に来ることが決まったとき、友達に「なぜ福島に行く必要があるのか」と聞かれました。特に原発の影響に関して心配をされていて、水は飲まない方がいい、魚は食べない方がいいなど心配されました。
- ・ブラジルでは、報道やニュースで福島を見るときは、ほとんど原発だけで、それによってブラジル人はマイナスのイメージを持つようになりました。
- ・でも、実際に来て、福島に対する考えがまるっきり変わりました。
- ・福島をいろいろ見て気づいたことがあります。どんなにひどい災害を経験しても、福島県民は諦めない心を持っているんだなぁと思いました。
- ・福島の合い言葉「ふくしまからはじめよう」や「おだがいさまセンター」をみて、福島はがんばっているのだなぁと思いました。

⑥ デルヒュディセ サンティアゴ（アルゼンチン福島県人会）

- ・福島に来ることが決まったとき、友達に「なぜそんなところに行くのか？」と言われました。家族も心配していましたが、実際にここに来てみると、とても綺麗で人もとても良かったです。
- ・私はここに来て「絆」という言葉を聞きました。人々が一緒に何かをやっていく中で、とてもいい言葉だと思いました。

- ・アルゼンチンに帰ったら、福島の人たちがどのように災害に対応しているのかを説明していきたいです。
- ・この研修に参加する機会をいただき感謝しています。一生忘れられない経験になりました。



今村さん



須藤さん



サンティアゴさん

⑦ 菅野 アナ クリスティナ（アルゼンチン福島県人会）

- ・福島に行くことになった時、友達に「なぜ福島に行くのか？水は大丈夫なのか？放射能はどうなのか？」といろいろな心配されました。
- ・私が福島に行くことを決めた理由は、父の生まれたところを見たかったためです。また、原発事故だけではなく、地震と津波の被害と復興について学びたかったからです。
- ・ホームステイの時、ホストファミリーに父が生まれた町に連れて行ってもらいました。でも、その町は何も残ってなくてすごく悲しい気持ちになりました。
- ・福島に来て気づいたのは、みなさんの復興に対する強い気持ちやコミュニティーづくりにがんばっているところです。人は一人では生きていけないということも学びました。帰国後は、県人会の皆さんといっしょにコミュニティーづくりをがんばっていきたいと思います。
- ・ひとつ言いたいことがあります。3年でこんなに福島が復興していることはすごく驚きました。でもこの復興の姿は海外には伝わっていないと思います。
- ・私は数字や統計の仕事に関わっていることもあり、福島に来る前にインターネットでいろいろと調べたけど、なかなかはっきりとした情報を調べるのは大変でした。
- ・こんなにすばらしい復興活動があるのに、世界のみなさんに伝わっていないのはとてももったいないと思います。
- ・今回は、このような素晴らしい経験をさせていただきありがとうございました。今度は家族を連れて来たいと思います。

⑧ ナベタ アルベルト ナオ（ペルー福島県人会）

- ・祖父や父から聞いていた日本の生活を今回の訪問で見ることができました。確かに、物はハイテクになっていますが、「遠慮」や「もったいない」という精神は変わっていないように思われます。
- ・今回の訪問で、日本人は困っている時にお互い助け合うということを感じました。
- ・あと驚いたのが、行政機関の人が都市や地方に関わらず、どの地域にも情報をたくさん与えているということです。私の国では、地方や郊外の離れた所に住んでいる人にあまり情報は行き渡りません。その違いに驚きました。
- ・このような機会を与えていただいたことに感謝しています。



菅野さん



ナベタさん

⑨ サトウ デイビッド アンドレス（ペルー福島県人会）

- ・どこから話していいかわからないのですが、福島に来ることを楽しみにしていました。
- ・友達は放射能のことで冗談を言っていたりしました。あと、自分は日本人に対する偏見を持っていたのですが、具体的には日本人は外の人を受け入れてくれないのではという心配でした。
- ・でも実際に来てみたら正反対でした。すごく綺麗な景色や県民の互いに助け合う心に感動しました。
- ・さらに、復興活動だけではなく、コミュニティーづくりに励んでいることにすごく感心しました。最近の世界の傾向は、自分のことしか考えないわがままな人がたくさんいるので、それがすごく大事な事だと思います。それが、福島県に来て気づいたことで一番大切なことだと思います。
- ・ペルーでは、震災が起きて1週間ぐらいずっとニュースや新聞で原発のことばかり報道されていました。でもその後は完全に情報がなくなってしまいました。
- ・そのおかげで、未だにペルーには震災直後の福島のイメージを持っている人がたくさんいます。
- ・ぜひまた福島に来て、その後の復興の様子などを確認したいです。あと、福島の魅力をもっと体験したいです。

⑩ 佐藤 美樹（ドミニカ福島県人会）

- ・私は友達が言うようには怖くはなかったのですが不安はありました。
- ・皆さんは復興に向かって力を合わせていて、とてもユニークなことと思いました。
- ・ホームステイをしていて気がついたことは、日本人の皆さんが津波や地震の後も前進し続けていて、新しいことにすぐ変えることができ、ページをまるめぐるように前進していくのが分かりました。
- ・私はこの場所が、力強く明るい場所だという風に感じましたので、自分の国に帰った後も、福島の素晴らしさを伝えたいと思います。
- ・私が国に帰ったら絶対友達や家族を連れてきて、もう一回日本に来たいと思います。このプログラムに感謝します。ありがとうございました。



サトウ デイビッドさん



佐藤美樹さん

⑪ モリワケ マリエル メグミ（ホノルル福島県人会）

- ・8年前に母の仕事の関係で福島に来ました。日本語を話せなかったため、無口に過ごしましたが、綺麗な景色や魚、農業、文化などしっかり覚えています。
- ・震災が起きたときすごく無力を感じました。福島のカになりたかったのですが、できることを見つけることが難しかったです。
- ・そのときに、私の会社で赤十字に送るための募金をしたのですが、私は赤十字ではなく福島に寄付できないか上司に相談しました。上司は快く了解し、スタッフの募金と同じ金額を会社が出すことになりました。ホノルル福島県人会を通じて、県に1万5千ドルの寄付ができ、自分でもこんなことができたことに感動しました。
- ・震災が起きて3年。復興に関する情報に触れることがなく心配をしていました。実際に来てみてこんなに復興が進んでいることにびっくりしました。
- ・やはり、実際に福島に来て自分の目で見て確かめるのが現状を理解するのに一番良い方法だと思います。一生忘れられない経験になりました。
- ・かーちゃんのカプロジェクトで話を聞いて泣いて、そのあとのおだがいさまセンターの話でがんばりたい気持ちになって、大堀相馬焼きの話聞いて自分の文化や歴史を守る努力の大切さを学び、最後はJAの方が笑わせてくれたので、笑いも必要なのだと思いました。

・帰国したら福島の現状や復興への前向きな気持ちの大切さを伝えたいと思います。

⑫ カネヒロ クリストファー ケコア（ホノルル福島県人会）

- ・私がハワイで見た福島のニュースはとても短いものでした。ここまで復興の状況にもってくるには、とても大変長い時間がかかったことと思います。
- ・福島に行くことは楽しみにしていたのですが、周りの人たちからは、放射能を浴びるぞ、何を食べる気なのかなど言われました。でも実際に福島に来てみると、とても組織だった方法でモニタリング検査が行われていることが分かりました。
- ・今回いろいろなことを経験しましたが、一番印象に受けたことは人々です。人々はとても優しく、強く、ポジティブでした。
- ・ホームステイ先では、言葉はあまりできませんが、通じ合えたような気がします。
- ・このプログラムに感謝しています。ありがとうございました。



モリワケさん



カネヒロさん

⑬ タビオス ブロンソン シゲオ（ホノルル福島県人会）

- ・私はいつか福島に行くことが夢でした。なぜなら祖母の生まれ故郷だからです。
- ・親戚に会えるのも楽しみでしたし、復興についても学びたかったです。
- ・福島に来ての第一印象はポジティブなことばかりでした。県民の優しさ、天気はちょっと寒いけど、普段はすごくいいと聞いています。
- ・親戚からは自分のルーツや歴史について教えてもらうことができました。
- ・福島に来る前は、友達からは、なんで福島に行くのか？危険ではないのか？いろいろ言われましたが、実際来てみたら安心できる状況で、風評被害や福島の食べ物が安心して食べられることを学ぶ機会がありました。
- ・初めてあったメンバーとも仲良くなれて、家族のようです。
- ・帰国したら、前向きにがんばっている福島の姿を伝えたいと思います。また、家族や友人をつれて福島に来たいと思っています。ありがとうございました。

⑭ カワサキ アン マサコ

- 福島に来る前に心配はたくさんありましたが、人々に会ってたくさんの経験をしたと思いました。そして日本語も勉強してきました。
- 日本での経験を帰国後に伝えたいと思います。



タビオスさん



カワサキさん



懇談会終了後

2月6日

◆日産自動車いわき工場

∨型エンジンの生産を行っている日産自動車いわき工場を訪問。東日本大震災により地盤沈下等により建物や設備に被害が出たが、懸命の復旧作業により約2ヵ月後に工場再開に結びつけた復旧までの道のりや、日本のものづくりに対する姿勢について理解を深めた。



#### ◆福島洋上風力交流センター

福島復興浮体式洋上ウィンドファーム実証研究実験の意義や事業の進捗状況について、県産業創出課の滝田主査より説明を受け、本県の再生可能エネルギー導入促進に向けた取り組みについて理解を深めた。



#### ◆アクアマリンふくしま

環境水族館アクアマリンふくしまにおいて、被災から再開までの道のりについて理解を深めた。



被災・復旧状況についての講義

#### ◆いわきハワイ交流協会歓送迎会

いわきハワイ交流協会のみなさんによる歓送迎会が開催され、互いに交流を深めた。



フラダンスで歓迎



いわきハワイ交流協会のみなさんと



2月7日（金）

◆帰国

朝、ホテルハワイアンズを出発。バスにて成田空港へ。車内では研修の感想や今後の抱負等について活発な意見交換が行われた。

なお、遅いフライトにより帰国する研修生は、成田山新勝寺の見学を行った。



成田空港に向かうバスの車内



成田山新勝寺

【結びに】

本研修は東日本大震災以降の休止期間を経て、今年度より再開となった。研修生は母県訪問による自らのルーツの再確認を通じて、本県との絆をより確かなものとするとともに、復興に向けての取り組みや現状を実際に見ることで、福島についてより理解を深めることができたと思われる。

その中で特に印象的だったのは、研修生の多くが福島行きを家族や友人から心配され、本人も心配しての来福となったが、実際に福島に来てその印象が180度変わったというところである。百聞は一見にしかず。風評払拭には実際の経験に勝るものはないことを改めて感じさせられた。さらに、今回の研修で培った一つ一つのつながりが、本県に対する思い入れを一段と大きくし、それが母県「福島」に対する想いを強くしているものと思われる。

時の流れの中、祖先の「移住」により日本より遠く離れた海の向こうで生活を送ることになった研修生とその家族。その心はいつまでもふるさと「日本・福島」を思い続けていることを、日本に残った我々は過去の歩みも含めて決して忘れることなく、今後も交流・協力関係を築いていくことが大切かと思われる。海外からも本県を思ってくださいる方々がいることは、本県にとってとても素晴らしい財産である。

（了）